

平成29年度地域未来塾活動一覧

[4市町19教室]

市町名	教室数	教室名	対象学校名	主な実施場所	委託	委託団体名
彦根市	9	外国籍生徒支援学習教室	東中学校	東中学校	○	東中学校区支援地域協議会
		放課後学習教室	東中学校	東中学校	○	東中学校区支援地域協議会
		西中学校未来塾	西中学校	西中学校	○	西中学校区支援地域協議会
		土曜教室てみる	中央中学校	中央中学校	○	中央中学校区支援地域協議会
		学び育ち教室	中央中学校 東中学校 彦根中学校	中地区公民館	○	中央中学校区支援地域協議会
		彦根南サポートオフィス	南中学校	南中学校	○	南中学校区支援地域協議会
		彦根中学校地域未来塾	彦根中学校	彦根中学校	○	彦根中学校区支援地域協議会
		鳥居本中学校地域未来塾	鳥居本中学校	鳥居本中学校	○	鳥居本中学校区支援地域協議会
		稲枝中学校地域未来塾	稲枝中学校	稲枝中学校	○	稲枝中学校区支援地域協議会
日野町	6	日野町夏休みチャレンジ教室	日野小学校 西大路小学校 南比都佐小学校 必佐小学校 桜谷小学校	日野町立図書館 日野町勤労福祉センター		
		西大路地域未来塾	西大路小学校	西大路小学校		
		日野・鎌掛学区チャレンジ教室	日野小学校	日野小学校		
		南比都佐学区チャレンジ教室	南比都佐小学校	南比都佐小学校		
		必佐学区チャレンジ教室	必佐小学校	必佐小学校		
		桜谷地域未来塾	桜谷小学校	桜谷小学校		
豊郷町	3	豊日中学校地域未来塾	豊日中学校	豊日中学校		
		豊郷小学校地域未来塾	豊郷小学校	豊郷小学校		
		日栄小学校地域未来塾	日栄小学校	日栄小学校		
多賀町	1	多賀町中学生土曜講座	多賀中学校	多賀町立文化財センター	○	株式会社 ケイ・エム・ジーコーポレーション
計	19					

※地域学校協働本部内において、学習支援員を配置した学習支援活動(本部内地域未来塾)の実施

[2市町9教室]

○東近江市(小学校8教室) ○多賀町(小学校1教室)

彦根市における地域未来塾の取組

■ 目指す姿

○地域未来塾では、中学生を対象に放課後や土曜日等に教員OBや大学生など地域住民の協力による学習支援を実施する。この取組で、学力向上を図るとともに、家庭の事情により、家庭学習が困難であったり、学習習慣が身につけていなかったりする中学生への支援につなげる。また、地域住民の生涯学習・自己実現に資するとともに、活動を通じて地域のつながりを強化し、地域の活性化を図る。

■ 本年度の具体的活動

(1) 実行委員会の開催（年2回）

構成委員：18名（各中学校管理職、CS管理職、地域コーディネーター、学び育ち教室コーディネーター、彦根市PTA連絡協議会会長）事務局（生涯学習課長、主幹、学校教育課長、主査）

7月14日（金）：事業説明・各教室の実践交流

1月29日（月）：各教室の実践交流・次年度の計画

(2) 10・11月：学校訪問

7中学校（9教室）を訪問 事業の進捗状況把握、今後の取組の確認

(3) 12月22日（金）：地域コーディネーター研修会および連絡会の開催

研修会：講師 湖南省立菩提寺小学校運営協議会理事 兼 地域コーディネーター 安部 正毅氏
演題 「地域コーディネーターに必要なこと」

連絡会：今年度の取組と次年度に向けての情報交流、事務局からの指示連絡等

■ 本年度の成果

○学習支援員の安定的確保のために、市内すべての学習支援員の時給単価を統一して、様々な機会を活用して募集を行った。募集活動をすることで各方面に地域未来塾の周知を図ることができた。

○地域未来塾が学習の支援だけでなく、生徒の心の居場所の役割を果たしていた。

○地域の方が中心になって学習支援を行っている教室では、学習支援員同士が交流することで、地域のつながりの強化や支援員の生きがいつくりに資することができた。

○地域コーディネーターが中心になり、子どもの取組の様子等が、地域へ発信できた。周知を図ることで、「地域の子は地域で守り育てる」機運が高まった。

○地域協議会、実行委員会での交流により、取組体制や支援内容、方法について情報共有できた。

■ 課題と今後の学習支援活動に向けて

○地域コーディネーターと学校関係者が連携を密にして、地域支援者をさらに巻き込む取組の開発

○事業を支える学習支援員を安定的に確保するための工夫

○学習支援を必要とする生徒が参加しやすい環境づくり

■ その他

○彦根市における特色ある活動内容の例

・地域コーディネーターが全校生徒に募集して地域未来塾を開設し、「学校と一緒に教育を考える」スタンスで地域の方たちの手による教室運営を実施。

・複数校生徒を対象に、公民館を使って週1回19時から開設。

・地域コーディネーターが中心になって毎週土曜日に開設。

外国にルーツをもつ生徒の学習支援

(東中学校)

彦根市	
活動名 外国籍生徒支援学習教室 (外国にルーツを持つ生徒の学習支援)	
年間開催日数	140日
学習形態	<input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使って一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ()
教室のもち方	<input checked="" type="checkbox"/> 放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ()

地域コーディネーター (地域学校協働活動推進員)	<input checked="" type="checkbox"/> あり 1人 <input type="checkbox"/> なし
学習支援員等人数	学習支援員 3人 教育活動推進員 0人 教育活動推進員 0人 その他ボランティア 0人 計3人
学習支援員等の属性	<input type="checkbox"/> 企業人 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO 等関係者 <input type="checkbox"/> その他
子どもの 平均参加人数	1.5人

■ 活動の概要と目的

言葉や文化の違う日本で学校生活を送っている外国にルーツを持つ生徒の学習を支援する。

■ 特徴的な学習支援内容

- (1) 中国にルーツをもつ生徒の支援には、中国語のできる元教員のボランティアが学習支援。
- (2) フィリピン、タイ等にルーツをもつ生徒の支援は、元教員のボランティアが日本語で学習支援。

■ 対象とする生徒

外国にルーツをもち、学習支援が必要な生徒

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

○個別に声をかけ、本人に希望を聞き、保護者の承認を得て実施。

■ 事業の成果

- 言葉の壁などで、一斉授業のなかではついていけないところを、個別で対応することで、学力向上につながった。
- 受験生の生徒については、ボランティアに高校受験にむけての学習の仕方や受験についての相談にのってもらうことができた。
- 学習支援を受ける中で、生活面での困りごとともボランティアに相談にのってもらい、生徒の心の安定につながった。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- 生徒の母国語が話せるボランティアの確保
- 生徒にあった学習教材の準備



【学習の様子】

彦根市	
活動名 放課後学習教室	
年間開催日数	34日
学習形態	<input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使って一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ()
教室の持ち方	<input checked="" type="checkbox"/> 放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ()

地域コーディネーター (地域学校協働活動推進員)	<input checked="" type="checkbox"/> あり 1人 <input type="checkbox"/> なし
学習支援員等人数	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援員 13人 <input type="checkbox"/> 教育活動推進員 0人 <input type="checkbox"/> 教育活動サポーター 0人 <input type="checkbox"/> その他ボランティア 計13人
学習支援員等の属性	<input type="checkbox"/> 企業人 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他
子どもの平均参加人数	水曜 30人 / 木曜 12人

■ 活動の概要と目的

放課後の時間を利用して、生徒たちが自主的に学習できる場を提供し、学力向上をめざす。地域の人とつながる場をつくる。

■ 特徴的な学習支援内容

- 水曜放課後学習では、学習教科は自由で、生徒が学習しようと思う教材を持参して学習しているが、プリントや問題集等は準備して、生徒の希望にあわせて配布や貸出ができるようにしている。
- 木曜放課後学習では、受験直前対策として、生徒の学力にあわせたプリントを使用し、学習支援員がついて支援している。



【学習の様子】

■ 対象とする生徒

水曜日・・・1～3年生 学習会への参加を希望する生徒（6月から毎月）
 木曜日・・・3年生 支援が必要な生徒を中心に開催。該当しないが希望する生徒も参加している。（11月から毎月）

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

○水曜放課後学習

「自分が決める」という生徒の自主性を尊重し、成績に関係なく、参加するという意識のある生徒の参加を受け入れている。募集チラシは、生徒へ宛てたものにして、欠席する場合は連絡あれば尊重し、無理に引き留めない等、やらされる学習ではなく、主体的に学習する場をつくるよう心掛けている。学習時間は1時間半確保している。

○木曜放課後学習

支援が必要であろう生徒に教員が声がけて参加を促している。
 学習会には、必ず3年生担当の教員が2名程度参加し、ボランティアと連携をとって生徒を支援している。

■ 事業の成果

- 水曜放課後学習会では、生徒同士教え合ったり、積極的に学習支援ボランティアに質問したりする姿が多くみられ、それが同室で学習する他の生徒への刺激になるなど、全体の学習意欲を高められた。
- 木曜放課後学習会では、少人数で個々に対応した受験にむけた学習支援ができた。
- 生徒と地域住民である学習支援員との間に繋がりができた。



【学習の様子】

■ その他

学習支援員は、元教員や元保護司等、毎年支援してくださっている地域の大人がほとんどで、学校や生徒の様子もよくわかってくださっていて、安心して支援をお願いできている。
 水曜放課後学習は、これまでの学校主催の形から、地域学校協働本部主催の形に変えたため、先生の会議や学校の行事等に左右されることなく開催できた。

彦根市		地域コーディネーター (地域学校協働活動推進員)	■あり 1人 □なし
活動名 西中学校未来塾 (楽習広場)		学習支援員等人数	学習支援員 11人 教育活動推進員 教育活動サポーター その他ボランティア 計11人
年間開催日数	100日	学習支援員等の属性	□企業人 □行政職員 ■元教員 □地域住民 ■大学生 □NPO等関係者 □その他
学習形態	■個別の学力補充 □教材を使って一斉学習 □その他 ()	子どもの平均参加人数	15人
教室の持ち方	■放課後実施 □土曜日実施 ■長期休業日実施 □その他 ()		

■ 活動の概要と目的

日々の授業の中において、すべての生徒に学力を保障しなければいけない。しかし、現状としては学習習慣が十分に身につけていないため、一斉授業の中では十分な学力がついているとは言えず、個別の指導が必要である。そのため、学習補充が必要であると考えられる生徒を各教科で選抜し、部活動のない水曜日の放課後に個別指導を行い、学力向上や学力維持に努めたい。

■ 特徴的な学習支援内容

- (1) 学年ごとに、国語、数学、英語の三教科をローテーションで行い、専門教科の教員や退職した元教員、大学生の専門性を活かし、どの学年に入るかをその都度決定して配置している。
- (2) 部活動のない水曜日の放課後に実施しているため、時間的にもゆとりをもって学習支援ができる。

■ 対象とする生徒

各学年とも、国語、数学、英語について補充学習が必要であると考えられる生徒を教科担当者が選抜する。その他希望がある場合も受け付ける。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

- 学習する生徒について、各学年の教科担当者が選抜したり、生徒の自主的な判断で希望も受け入れている。
- 指導する大学生ボランティアの募集については、大学掲示板での呼びかけでは、希望する学生が集まらないため、知り合いを通じて声をかけてもらうことで、より多くの学生を確保することができた。

■ 事業の成果

- どの教科も一週間に一回の学習のため、定着の結果はすぐに出ないが、継続していくことで授業への参加意欲や学習へのやる気をもって取り組むようになってきている。
- 指導する学生ボランティアは、一度、定期的に水曜日に来れるような流れをつくと、次年度も、ある程度は安定して人材確保ができる。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- 本来は、本校教員が不在でも、学習ボランティア(元教員や大学生)だけで実施できるような体制を作りたい。
- 学習ボランティアの人材確保については、今後も一定の人数確保はできると考えられるが、いつも同じ支援者とは限らず、すべてを任せるような状況にはまだ少し時間がかかる。
- 次年度も、より効果のあがるような教材の精選や作成に取り組むたい。
また、放課後学習をしたあとに、もう一度、帰宅後に同様の簡単な問題に取り組むことで、より学習の定着度が増し生徒自身も効果を自覚できると考える。



【学習の様子】

彦根市	
活動名 土曜教室 試みる	
年間開催日数	18日
学習形態	<input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使って一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ()
教室の持ち方	<input type="checkbox"/> 放課後実施 <input checked="" type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ()

地域コーディネーター (地域学校協働活動推進員)	<input checked="" type="checkbox"/> あり 1人 <input type="checkbox"/> なし
学習支援員等人数	学習支援員 15人 教育活動推進員 0人 教育活動サポーター 0人 その他ボランティア 0人 計15人
学習支援員等の属性	<input type="checkbox"/> 企業人 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO 等関係者 <input checked="" type="checkbox"/> その他
子どもの平均参加人数	12人

■ 活動の概要と目的

子どもたちの土曜日の教育環境の充実に取り組む「地域の豊かな社会資源を活用した土曜日の教育支援事業」として、彦根市内中学校に先駆けて一昨年9月から土曜学習支援「土曜教室 試みる」をスタートした。この教室は、学校の教員ではなく、土曜教室コーディネーターと地域の大学生や社会人による学習支援員が運営している。子どもたちへの学習補助や推進員との対話を通じて、学びへの動機付け（来てみる・やってみる・失敗して学ぶ）や将来になりたい姿を見つけることなどをねらいとしている。

- 目的
- ・学習習慣の定着を図る。
 - ・基礎学力を補充する。
 - ・支援員との対話を通してコミュニケーション能力を身につける。
 - ・将来になりたい自分を見つける。

○場所 中央中学校

○期間 平成29年5月～平成30年2月

- 学習内容
- ・100マス計算など、学習へのウォームアップを行う。
 - ・各自の学習課題に取り組む。
 - ・土曜教室で準備している学習教材に取り組む。



【土曜教室の授業風景】

■ 特徴的な活動内容

学習補助による基礎学力の定着と対話によるコミュニケーション能力・社会性の向上を目的に、授業教材・ワーク、プリントを使った自主学習をベースにわからない箇所の指導をしている。

■ 対象とする生徒

中央中学校1年生～3年生の希望する生徒 20名

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

- 多くの子どもに参加機会を与えるために、前期9回（5～9月）、後期9回（10～2月）に分けて参加生徒を募集した。
- 学習面では、教室の最初に100マス計算や漢字検定プリントを行い、学びへのウォームアップをしている。また生徒の個別ファイル・個別ノートをつくり、教室で使ったプリントなどをその場でファイルに綴じ、自身の学習記録として保存している。
- 一日の学習計画として、プリント⇒宿題・ワーク40分⇒休憩10分⇒宿題・ワーク40分⇒対話としているが、子どものコンディションに合わせて時間配分・学習内容を決定している。
- 学校での教員と生徒の関係ではなく、ナナメの関係で接することを大切にしている。子どもと学習支援員との人間関係を築くために双方が名札を着用する。名札には「好きなこと、ハマっていること」などを記載し互いを知るツールとして使っている。関係性が浅い時点では、子どものことを質問するのではなく、先に推進員が自己開示するなど安心感を与えることが大切である。学習指導では「～しなさい」という強制はせず、「～してみる？」という声かけで子どもの自主性を促すことに努めている。

■ 事業の成果

○定員を20名としているが、前期19名、後期20名の参加申込があった。ただ上記のとおり、実際の出席者は平均12名程度であり、10名余りの学習支援員とほぼマンツーマンでの学習指導である。場面緘黙など個々に課題を抱える生徒もいて、子ども達にとっては、大変充実した学習の場となっている。また、家庭学習がなかなか定着しない生徒も複数名おり、土曜教室に参加することで、一定時間集中して学習することができた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

○地域人材を活用して推進員を集めるのは大変であり、コーディネーターのつながりで集めているが、その人員確保が大変である。子どもへの学習指導を考えると、推進員の人数も大切であるが、あわせて指導力を充実させることも必要である。

学び育ち教室 Learning Links 「LL教室」 (中央中学校)

彦根市	
活動名 学び育ち教室 Learning Links (中央中学校区支援地域協議会)	
年間開催日数	28日
学習形態	<input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使って一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ()
	<input checked="" type="checkbox"/> 放課後実施 毎週月曜夜 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ()

地域コーディネーター (地域学校協働活動推進員)	<input checked="" type="checkbox"/> あり 1人 <input type="checkbox"/> なし
学習支援員等人数	学習支援員 14人 (1回平均) 教育活動推進員 0人 教育活動サポーター 0人 その他ボランティア 1人 計15人
学習支援員等の属性	<input checked="" type="checkbox"/> 企業人 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input checked="" type="checkbox"/> NPO 等関係者 <input type="checkbox"/> その他
子どもの平均参加人数	18人

■ 活動の概要と目的

基礎的な学力の定着と社会性などのコミュニケーション能力の向上、将来のロールモデルとの出会いなどを目的に、毎週月曜日の夜間に地域の公民館で活動している。大学生と社会人が支援員となり、教えてあげる・支援してあげるという上下の関係ではない、ナナメの関係築くことも大事にしている。

■ 特徴的な学習支援内容

(1) 学習を強要しないこと。子どもと支援員をマンツーマンになるよう配置し、その日の子どもの状態にあわせて学習・交流・休憩を取り入れながら、学習につながる環境づくりをしている。

(2) ナナメの関係築くことで、支援員が子どものロールモデルになることや、「ねえ、聞いて」と言える環境づくりをしている。

■ 対象とする生徒

彦根市内の中学生1年から3年生

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

○公民館の所在する市立中央中学校で毎年5月に募集チラシの配布による参加者募集をしている。



○子どもと支援員を原則としてマンツーマンになるよう配置し、その日の子どもの状態にあわせて学習・交流・休憩を取り入れながら、学習につながる環境づくりをしている。

【LL教室の様子】

■ 事業の成果

○活動が5年目を迎え、中学1年生から継続して参加している生徒も3年生になり、学校や家庭とは別の第三の居場所として定着している。

○その実績もあり、特に今年度は新たに多くの中学2年生や3年生が参加している。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

○マンツーマン対応を原則としていることから、常に支援員の確保に課題がある。特に今年は中学3年生が増え、受験期に近づくにともなう学習ニーズへの十分な対応に苦慮している。

○大学生の支援員は試験や長期休暇、就職活動のため参加できなくなるため、安定的・継続的な活動のためには社会人支援員を開拓する必要がある。そのために学校にかかわる様々な場面で、学習支援活動の紹介と参加勧奨が必要と考えている。

放課後学習「水曜ゼミ」～基礎学力を高めて目指す進路を実現しよう！～

(南中学校)

彦根市	
活動名 彦根南サポートオフィス（水曜ゼミ）	
年間開催日数	16日
学習形態	<input type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input checked="" type="checkbox"/> 教材を使って一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ）
教室の持ち方	<input checked="" type="checkbox"/> 放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ）

地域コーディネーター (地域学校協働活動推進員)	<input checked="" type="checkbox"/> あり 1人 <input type="checkbox"/> なし
学習支援員等人数	学習支援員 3人 教育活動推進員 0人 教育活動サポーター 0人 その他ボランティア 0人 計3人
学習支援員等の属性	<input type="checkbox"/> 企業人 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input checked="" type="checkbox"/> その他
子どもの平均参加人数	10人

■ 活動の概要と目的

毎週水曜日の放課後1時間「水曜ゼミ」と名付け、学校図書室にて数学・英語・漢字の基礎プリントの学習をしている。これまでの取り組みをベースに、各生徒の目指す進路を実現させるための学力補充を行い、学力の底上げを図っている。

■ 特徴的な学習支援内容

- (1) 学習支援員は現役大学生を中心に募集を行っているため、生徒にとっては年齢も近く、親しみやすい・話しやすい雰囲気の中で静かに学習を進めている。
- (2) プリントは基礎的な内容をまとめた3教科を用意し、各自の学力や得意・不得意に合わせて選択して取り組めるので、コツコツやり遂げることで学習習慣を身につけることにつながっている。



【水曜ゼミ その1】

■ 対象とする生徒

学力補充のため、受験を控えた3年生の中で特に基礎学力の強化が必要と思われる生徒を対象としている。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

- ゼミ参加については3年生全員を対象に募集を行い、その後学力補充が必要と思われる生徒に声をかけて、参加者の絞り込みを行った。
- 参加生徒の個別ファイルを作り、プリントをその場でファイルして自身の学習記録としている。また、学習支援員も振り返りの記録ノートをつけており、学習支援の内容や今後の指導の留意点などを記して、次回のゼミへとつなげている。
- ボランティアの確保に関しては、地域内小学校で行われた夏休み学習教室にお邪魔しボランティアに来ていた大学生にお願いして、水曜ゼミにも協力していただく事ができた。



【水曜ゼミ その2】

■ 事業の成果

- 学習意欲がやや低く理解に時間のかかる生徒が多い中、一人一人に丁寧にサポートしていただくことで、学習への苦手意識を取り去り集中力が出てきて、継続的に学習に取り組むことができるようになった。
- 最初は緊張していた生徒も回が進む毎に打ち解けて、学習支援員とのコミュニケーションもスムーズにとれるようになってきた。そのため、水曜ゼミへも楽しそうに参加する姿が見受けられるようになった。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- 何よりも学習支援員の確保が最優先の課題である。中学生を支援しようという意識の高い方に集まっていただく事の難しさを感じる。また水曜日の3時～4時という時間のため、大学生によっては講義が入る場合があり、学習支援参加への思いを持っていただいても、それができない場合も多々ある。
- 中学校の教員を対象にアンケートを実施したところ、他学年にも学習支援を望む意見が多かった。現在は学習支援員の人数と生徒の人数のバランスを考え3年生の一部生徒に限られているが、今後は全学年に亘って実施できるように、支援員やサポーター・地域からのボランティアを募ると共に、曜日・時間の調整をしていかなければならない。

* 今後もこの事業を発展させていこうとするのであれば、行政からのバックアップがもう少し必要と感じる。コーディネーターや関係者の研修会だけでなく、県立大学の学生・県立高校の生徒からの協力を得られるような仕組み作りをお願いしたい。どの地域でも人材の確保に課題を抱えているのではないかとと思われる。学校や地域コーディネーターの力だけでは難しいものがあると感じる。

3年放課後学習会 & 3年放課後学習スペース

(彦根中学校)

彦根市	
活動名 彦根中学校地域未来塾 (3年放課後学習会 & 3年放課後学習スペース)	
年間開催日数	22日 & 25日
学習形態	<input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使って一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ()
教室のもち方	<input checked="" type="checkbox"/> 放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ()

地域コーディネーター (地域学校協働活動推進員)	<input checked="" type="checkbox"/> あり 1人 <input type="checkbox"/> なし
学習支援員等人数	学習支援員 5人 教育活動推進員 0人 教育活動サポーター 0人 その他ボランティア 0人 計5人
学習支援員等の属性	<input type="checkbox"/> 企業人 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input checked="" type="checkbox"/> その他
子どもの平均参加人数	8人 & 10人

■ 活動の概要と目的

3年生にとって2学期は、部活動を引退した放課後の時間に希望進路の実現に向けて本格的に学習に取り組む時期になる。しかし、一人では家庭学習に取り組めなかったり、何を学習していいのかわからなかったりする生徒もいる。そこで、地域の大学生等の協力を得て、放課後の時間帯に学校で3年放課後学習会を開催している。また、3年放課後学習会とは別に、1学期保護者アンケートで放課後に学習する場を作ってほしいと要望があり、少人数教室を開放して1時間程度自主学習の場を設けている。

■ 特徴的な学習支援内容

- (1) 3年放課後学習会 (月・金実施)
生徒が持ってくる学習教材のわからない問題や、数学と英語の基礎定着プリントに対する取組支援を、学習支援員と教員が5名程度で行っている。
- (2) 放課後学習スペース (火・木実施)
生徒の自主学習に対する取組支援を、学習支援員と教員が1名ずつで行っている。

■ 対象とする生徒

- 3年放課後学習会は、参加申込書を提出した基礎学力の定着が必要な生徒を対象に実施
- 放課後学習スペースは、全ての希望する生徒を対象に実施

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

- 3年放課後学習会は、前期(10~12月)と後期(1~3月)に分けて、定員10名で参加生徒を募集した。前期は学習支援員が参加可能な曜日(月・金)に月2回ずつ放課後1時間実施し、生徒は8名ずつ参加している。生徒2名に対して学習支援員(教員)1名がついて支援している。各自の課題だけでなく教科の基礎定着プリントを用意して、個々の学力向上につながるようにしている。
- 放課後学習スペースは、3年生の希望する生徒を受け入れ、放課後学習会のない曜日(火・木)に月5回程度実施し、生徒は5~15名参加している。各自の課題を自主学習する場として少人数教室を開放し、学習支援員(教員)がついて支援している。



【学習の様子】



【学習の様子】

■ 事業の成果

家庭学習に取り組めない生徒が、年齢の近い大学生の学習支援員に積極的に質問するなど、1時間の学習にまじめに取り組んでいた。生徒の学力を知っている教員が参加することで、個に応じた学習支援ができた。生徒の感想としては、「わからないことをすぐに教えてくれるので、良かった。」「家では勉強できないから参加した。いろいろ復習することで、苦手な所もわかってくるので、後期も参加したい。」「もっと回数を増やしてほしい。」など、意欲的に学習に取り組む場になっている。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

学習支援員が2名程度参加可能な曜日で3年放課後学習会を開催したが、学習支援員の都合が悪くなって教員だけで支援している日があった。地域に住んでいる大学生や遠方ではあるが市内の大学の学生に、本校の学習支援員として協力していただけるように積極的に広報活動をして、毎回5名程度の学習支援員の確保が必要である。また、開催時間は授業後の16時~17時となっているため、生徒が下校する時間に冬季は暗くなるため、学習支援員が確保できれば、授業が5時間で終わる毎週水曜日に開催したいと考えている。

前期参加生徒アンケート結果

よくあてはまる・ややあてはまるの割合	
開催日時はよかったですか。	100%
開催回数はよかったですか。	83%
学習内容はよかったですか。	100%
参加してよかったですか。	100%
後期も参加したいですか。	100%

地域未来塾の取組

(鳥居本中学校)

彦根市	
活動名 鳥居本中学校地域未来塾 (学力補充教室)	
年間開催日数	8日
学習形態	<input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使って一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ()
教室の持ち方	<input type="checkbox"/> 放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ()

地域コーディネーター (地域学校協働活動推進員)	<input checked="" type="checkbox"/> あり 1人 <input type="checkbox"/> なし
学習支援員等人数	学習支援員 4人 教育活動推進員 0人 教育活動サポーター 0人 その他ボランティア 0人 計4人
学習支援員等の属性	<input type="checkbox"/> 企業人 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO 等関係者 <input type="checkbox"/> その他
子どもの 平均参加人数	5人

■ 活動の概要と目的

生徒の学力の補充を目的として、長期休業中に、教員と一緒に実施している。

■ 特徴的な学習支援内容

(1) 基礎的な学力の補充

長期休業中に出される英語、数学、国語、理科、社会の課題(ワーク)の基礎的な問題やわからない問題を中心に、個別に教えている。

■ 対象とする生徒

○進路保障のため、学力の補充を必要とする生徒。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

○参加者の募集については、学力の補充が必要な生徒を教員が選んでいる。

○実施にあたっては、個別に教えてもらえるようにしている。

■ 事業の成果

○生徒は、わかりやすく教えてもらっていると好評である。

○地域の方も、中学生に学習を教えることで喜んでもらえる充実感がある。

○学習を通して、地域の方と中学生が交流できる。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

○学習支援をしてくださる地域の方が限定されていて、支援をしてくださる方が今以上に集まらない。

○支援をしてくださる地域の方をどのように集めるかが、大きな課題である。なかなか、学習支援となると、ハードルが高い面があるようで、気軽に来てもらえるような工夫を考えることが重要である。

日野町における「夏休みチャレンジ教室」「放課後学習」の取組

■目指す姿

- 日野町「夏休みチャレンジ教室」…①夏休み中の宿題などへの対応に苦慮している児童へのアドバイス、②基礎的・基本的な学習内容が十分に定着していない児童への支援を目的に、日野町内在住退職教員有志が中心となり、大学生の学習支援ボランティアとともに少人数体制で学習支援を展開し、学習に対する関心や意欲をより一層高めることを目的としている。
- 「放課後子ども教室」…放課後の時間帯を活用して、一斉学習の中では基礎的・基本的な学習内容の定着が不十分な児童等を対象として、少人数体制で個々の課題に応じた個別指導を行い、学習に対するやる気や自信を高めることを目的としている。

■本年度の具体的活動…

- 日野町「夏休みチャレンジ教室」…保護者の了解のもとで参加を申し出た日野町内小学校3～6年生の児童を対象として、日野町立図書館研修室他を会場に、夏季休業中に6回実施した。
- 「放課後子ども教室」…町内2小学校区（西大路小学校区、桜谷小学校区）において、小学生を対象に放課後実施している。

①「桜谷小学校放課後学習」…

1・2年生は火・木・金曜日の高学年下校までの間、およびバス待ちの間に実施。また、3～6年生は火曜日の放課後に実施。特に、中学年は毎回主なテーマを設けて実施している。一例としては、3年「たし算・引き算」「かけ算」「わり算」「時刻と時間」「長さ」「重さ」「大きい数」等に、4～6年は「かけ算・わり算」「小数」「分数」「三角形と四角形」「面積」等に取り組んでいる

②「西大路放課後チャレンジ教室」…1) 国語科・算数科

2) 授業で学習している内容の復習や補充 3) 授業内容に関わる前学年までの復習 4) 基礎的・基本的な学習内容のドリル学習支援等に取り組んでいる。



【夏休みチャレンジ教室の様子】



【桜谷小学校放課後学習の様子】

■本年度の成果

①日野町「夏休みチャレンジ教室」は、平成27年より取組をはじめ、本年度より「地域未来塾」として開催している。平成27年度26名、平成28年度41名、平成29年度59名の参加申込者を得、実施回数を重ねるごとに増えている。参加者延べ人数でも、平成28年度140名、平成29年度273名と倍近くに増加している。また、指導をいただく層もより厚みを増し、初年度から御協力を得ている日野町在住退職教職員有志の14名の皆様に加え、本年度から学習支援員として3名、「びわこ学院大学」を中心とした学生ボランティアも5名が加わり、よりきめ細かな指導が可能となった。

②「桜谷小学校放課後学習」…学校と連携し、教頭・教務の先生方を含み、全校体制で指導することができた。また、「放課後学習連絡カード」等を活用し、基礎基本の定着を図ることができた。

■課題と今後の学習支援活動に向けて

- 次年度以降、小学校においては「放課後子ども教室」の枠内で実施するとともに、新たに中学校においても「地域未来塾」（愛称：ステップアップ教室）の実施を検討している。
- 「桜谷小学校放課後学習」「西大路放課後チャレンジ教室」は、次年度以降「放課後子ども教室」の枠組みで実施し、町内他の小学校においても、それぞれの小学校の実態に応じて実施できるような環境を整える。例えばA小学校では、夏休み期間中2時間10回程度実施、B小学校では指導者2名をお願いし年間32週程度1回あたり2時間の教室を実施する予定で準備を進めている。
- 中学校においても「地域未来塾」の枠組みで、部活動休養日を活用して週1回程度実施する準備を進めていきたい。

基礎を身に付け、学びに向かう力を育む「夏休みチャレンジ教室」の取組

(全区区)

日野町	
活動名 日野町「夏休みチャレンジ教室」	
年間開催日数	夏休みチャレンジ教室 6日 町内2小学校チャレンジ支援
学習形態	<input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使って一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ()
教室の持ち方	<input type="checkbox"/> 放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ()

地域コーディネーター (地域学校協働活動推進員)	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
学習支援員等人数	学習支援員 17人 学生ボランティア 5人 合計 22人
学習支援員等の属性	<input type="checkbox"/> 企業人 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO 等関係者 <input type="checkbox"/> その他
子どもの平均参加人数	平均45.5人

■ 活動の概要と目的

○基礎的・基本的な学習内容が十分に定着していない児童、夏休み中の宿題などへの対応に苦慮している児童を対象に、日野町内退職教員有志が中心となり、大学生の学習支援ボランティアとともに少人数体制で学習支援を展開し、個々の課題を解消し、学習に対する関心や意欲をより一層高めることを目的とする。

○7月26日(水)、27日(木)、28日(金)、8月2日(水)、3日(木)、4日(金)の全6回、いずれの日も午前10時00分～午前11時45分まで、日野町立図書館視聴覚室(第1～4回)、日野町勤労福祉会館ホール(第5・6回)を会場に開催する。

○日野町内小学校3年～6年生を対象とし、参加申し込み者数59名、延べ参加者273名。

■ 特徴的な学習支援内容

- ①夏休み中の宿題などへの対応に苦慮している児童へのアドバイス
- ②基礎的・基本的な学習内容が十分に定着していない児童へのドリル学習支援 等

■ 対象とする児童

保護者の了解のもとで参加を申し出た日野町内小学校3年～6年生の児童

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

- ① 各小学校を通じて開催案内を配付し、7月12日(水)締め切りで参加者を集約する。ただし、締め切り期日後、追加による児童や保護者からの参加申し出については、日野町教育委員会学校教育課への電話による申込受入れも可とした。会場の関係上定員は40名程度とし、定員を大幅に超えた場合は、原則高学年で参加申し込み回数が多い方を優先することとした。

6月22日 運営会議を開催 指導者の支援体制・支援可能日等の確認を行う。

6月23日 町内小学校長宛 日野町退職教員有志の会代表並びに教育長名で、参加者募集チラシの配布の依頼を行う。

各校7月12日まで参加者募集受付、7月14日までに日野町教育委員会事務局担当まで提出。

- ② 参加を申し込まれた方に「事前アンケート」を配布。7月19日までに各学校、21日までに日野町教育委員会事務局に提出。「事前アンケート」には、「取り組みたいと思っていること」(児童記入)、「取り組ませたいと思っていること」(保護者記入)、指導者に連絡しておきたいこと等の記入欄を設けるとともに、持ち物等の連絡を行う。
- ③ 上記日程により実施。併せて、日野町内2小学校において実施される「チャレンジ教室」に指導者を派遣する。
- ④ 事後アンケートの実施 「子どもの感想」「保護者の感想」を記入いただき、郵便もしくは学校を通じて町教育委員会まで提出。
- ⑤ 8月10日 指導者反省会の開催

■ 事業の成果

○基礎学力の定着 学習習慣の定着

○参加者数・指導者・学生指導者数

	7月26日	7月27日	7月28日	8月2日	8月3日	8月4日
参加者	51名	47名	46名	43名	46名	40名
指導者	8名	9名	13名	11名	10名	10名
学生指導者	5名			4名		4名

○日野町では、地域未来塾のさきがけとして同様の事業を平成27年度から実施しており、平成27年度参加申込者26名、28年度41名、29年度59名と増加してきている。延べ参加者数も、平成28年度140名、29年度273名と増加している。本事業が保護者間に周知されてきたこと、内容がより充実してきたことがその要因であると考えられる。

○指導者については、平成28年度は日野町内在住退職教職員有志14名で実施、29年度は前記14名に加え新たに支援員3名、大学生(びわこ学院大学学生)5名が加わり、指導の充実が図られるとともに、支援者の広がりが見られた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

○「夏休みチャレンジ教室」は「放課後子ども教室」の枠組みの中で、平成30年度も継続実施の予定である。



【チャレンジ教室の様子】



【各校チャレンジ支援の様子】

苦手科目を克服し、意欲と自信アップにチャレンジ

(西大路小学校)

日野町	
活動名 西大路地域未来塾 (西大路放課後チャレンジ教室)	
年間開催日数	60 日程度 (10 月～3 月)
学習形態	<input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使って一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ()
教室の持ち方	<input checked="" type="checkbox"/> 放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ()

地域コーディネーター (地域学校協働活動推進員)	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
学習支援員等人数	学習支援員 4人 教育活動推進員 0人 教育活動サポーター 0人 その他ボランティア 0人 計4人
学習支援員等の属性	<input type="checkbox"/> 企業人 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO 等関係者 <input type="checkbox"/> その他
子どもの平均参加人数	2人

■ 活動の概要と目的

放課後の時間帯を活用して、一斉学習の中では基礎的・基本的な学習内容の定着が不十分な児童を対象に、西大路地区の教員退職された方が中心となり少人数体制で個々の課題に応じた個別指導を行い、学習に対するやる気や自信を高められるようにする。

■ 特徴的な学習支援内容

- 可能な限り、児童一人に指導者が一人担当し、丁寧に教える。
- 宿題やテスト直しを行いながら、国語科、算数科の授業でわからなかったところを指導する。

■ 対象とする児童

保護者の了解があり、本人にもやる気のある3～6年生の児童。また、保護者に、送迎に責任をもってもらえること。保護者の了解があれば、自転車での登校も認める。すべての児童に案内をするのではなく、補充学習が必要と思われる児童の保護者に担任から声をかける。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

- 補充学習が必要と思われる児童の保護者に、担任から声をかける。
- できるだけ多くの学習時間がとれるように、決まった曜日開催ではなく、児童が都合のよい日時に指導者の都合がつけられるようにスケジュール調整を行っている。

○事業の実施形態

- 1 時 期：10月19日より週2～3日程度。月・火・木・金曜日は16：30～17：30。水曜日は15：30～16：30。
児童は一旦下校してから参加する。絶えず支援が必要な児童が多いと思われるため、指導者1名の日は児童3名程度で、3学年以上の児童が重ならないように調整する。
2. 開催場所：西大路小学校コンピュータ室
3. 指導者：「日野町放課後支援事業」として10月19日より週3回×20週＝60時間程度。教員経験者を中心に依頼する。
4. 支援内容：国語科・算数科、授業で学習している内容の復習や補充、授業内容に関わる前学年までの復習
基礎的・基本的な学習内容のドリル学習支援 等

西大路放課後チャレンジ教室

チャレンジ教室では・・・

- 少人数で、苦手な内容についてていねいに教えてもらえる。
- 授業でわからなかったところをもう一度勉強できる。
- 算数科や国語科の基礎的・基本的な内容を復習できる。

よし、わかったぞ！
わかると楽しいな。

期 間 平成29年10月中旬～平成30年3月 ※週2～3回程度
(火)・(木)・(金)は16:30～17:30、(水)は15:30～16:30

会 場 西大路小学校 コンピュータ室

参加対象 - 授業に苦手意識を感じる西大路小学校3～6年生。
- 保護者の了解があり、本人にもやる気があること。

担 当 教員経験者など

その 他 - 毎月、日誌調整を行います。1回あたりの人数が多くなりすぎないようにする関係で、希望日のすべてに参加できるとは限りません。ご了承ください。
- 送迎につきましては、保護者の責任をお願いします。
- お問い合わせは、西大路小学校 教頭 (☎52-2558)まで。




■ 事業の成果

- 児童が一人で解く事が困難だった算数の計算などがスムーズに解けるようになった。
- 勉強がわかるようになり、自信がもてるようになったことで、授業中の不安感が少なくなった。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- 補充学習が必要だが、参加していない児童に興味をもってもらう工夫ができないか。
- 児童が意欲を持って取り組みたい学習を増やしていきたいと考えている。(漢検に向けた学習など)



【西大路放課後チャレンジ教室の様子1】



【西大路放課後チャレンジ教室の様子2】

「日野町夏休みチャレンジ教室」をベースとし、希望団体に指導者を派遣することで教室を開催（日野小学校）

日野町	
活動名 日野・鎌掛学区チャレンジ教室 (日野地域未来塾 「夏休みチャレンジ教室指導者派遣」)	
年間開催日数	3 日
学習形態	<input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使って一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ()
教室の持ち方	<input type="checkbox"/> 放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ()

地域コーディネーター (地域学校協働活動推進員)	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
学習支援員等人数	学習支援員 2人 教育活動推進員 0人 教育活動サポーター 0人 その他ボランティア 0人 計2人
学習支援員等の属性	<input type="checkbox"/> 企業人 <input checked="" type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO 等関係者 <input type="checkbox"/> その他
子どもの平均参加人数	5人

■ 活動の概要と目的

夏季休業中の期間を活用して、一斉学習の中では、基礎的・基本的な学習内容の習得が不十分な児童を対象として、日野町内在住退職教員有志が中心となり、少人数体制で、個々の児童の課題に応じた個別指導を行い、学びに向かう力を高めることを目的とする。

表1 夏休み補充教室実施日 日野・鎌掛学区

	1回目	2回目	3回目
3年	7月26日(水)	7月31日(月)	
	9:00~10:00	9:00~10:00	
4年	8月1日(火)	8月2日(水)	8月3日(木)
	9:00~11:00	9:00~11:00	9:00~11:00
5年	7月26日(水)	7月28日(金)	8月3日(木)
	9:00~11:00	9:00~11:00	9:00~11:00
6年	7月26日(水)	7月28日(金)	8月1日(火)
	9:00~11:00	9:00~11:00	9:00~11:00

■ 特徴的な学習支援内容

- 対象：小学校3～6年生（日程等は表1の通り）
- 内容：一学期の学習内容の補充 等

■ 対象とする児童

- 保護者の了解があり、申込みがあった児童。
- ※補充学習が必要と思われる児童に対して、担任より声をかけることもある。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

- 事業の展開に関しては、「日野町夏休みチャレンジ教室」を母体とし、日野町教育委員会が事前に各学区にアンケート調査を行い、各学区の希望調査結果をもって、日野町在住退職教員有志の会にお願いして、指導体制を整えた。
- 前年度同様、夏休み前半に日野町立図書館を会場に「夏休みチャレンジ教室」を開催し、その期間中またはその後 各学区が行うチャレンジ教室・補充教室等に支援者を可能な範囲で派遣する。6月22日までにメール・ファックス等で日野町教育委員会に申し込まれたものに対して、可能な範囲で指導者を派遣した。

■ 事業の成果

- 基礎学力の向上、学びに向かう力の向上

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- 平成27年度以来、日野町内在住の退職教職員の有志の方々に支援・協力をいただき開催している「日野町夏休みチャレンジ教室」を母体として、その発展形として、各学区が補習教室を実施する時などに、地域未来塾として指導の応援ができるように努めた。
- 行き帰りの交通安全等、送迎の面で課題があり、より身近な各学区の公民館等を会場に開催する方向を研究したい。



【日野・鎌掛学区 チャレンジ教室の様子】



【日野・鎌掛学区 チャレンジ教室の様子】

「日野町夏休みチャレンジ教室」をベースとし、希望団体に指導者を派遣することで教室を開催（南比都佐小学校）

日野町	地域コーディネーター (地域学校協働活動推進員)	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
活動名 南比都佐学区チャレンジ教室 (日野地域未来塾)	学習支援員等人数	学習支援員 2人 教育活動推進員 0人 教育活動サポーター 0人 その他ボランティア 0人 計2人
年間開催日数 1 日	学習支援員等の属性	<input type="checkbox"/> 企業人 <input checked="" type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO 等関係者 <input type="checkbox"/> その他
学習形態 ■個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使って一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ()	子どもの平均参加人数	3人
教室の持ち方 <input type="checkbox"/> 放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 ■長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ()		

■ 活動の概要と目的

夏季休業中の期間を活用して、一斉学習の中では、基礎的・基本的な学習内容の習得が不十分な児童を対象として、日野町内在住退職教員有志が中心となり、少人数体制で、個々の児童の課題に応じた個別指導を行い、学びに向かう力を高めることを目的とする。

■ 特徴的な学習支援内容

内容：一学期の学習内容の補充 等

■ 対象とする児童

- 対象：小学校3～6年生
- 保護者の了解があり、申し込みがあった児童。
- ※補充学習が必要と思われる児童に対して、担任より声をかけることもある。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

- 事業の展開に関しては、「日野町夏休みチャレンジ教室」を母体とし、日野町教育委員会が事前アンケート調査を各学区に行い、各学区の希望調査結果をもって、日野町在住退職教員有志の会にお願いして、支援者を可能な範囲で派遣するシステムとした。
- ※運営委員会を開催する6月22日までにメール・ファックス等で日野町教育委員会に申し込まれたものに対して、可能な範囲で指導者を派遣した。
- 今年度に関しては、全回出席者だけでなく、1度でも参加した児童に参加証の意味を込め右図1のような修了証書を授与するなど、児童の参加意欲・学習意欲を高めるように努めた。
- 参加にあたっては、右図2のようなカード（A4サイズ）を渡し、各回に自分が学んだこと・感想・取り組んだこと等を記入し、支援者にコメントをもらうことをした。

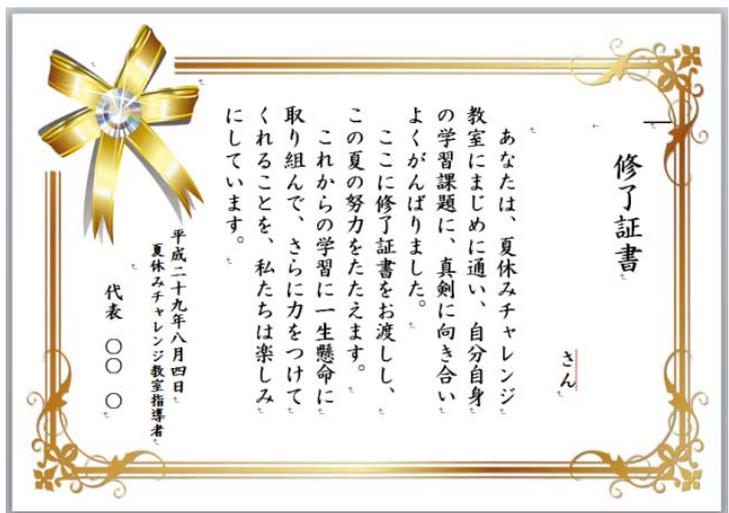


図1【参加児童に授与した修了証書（様式）】

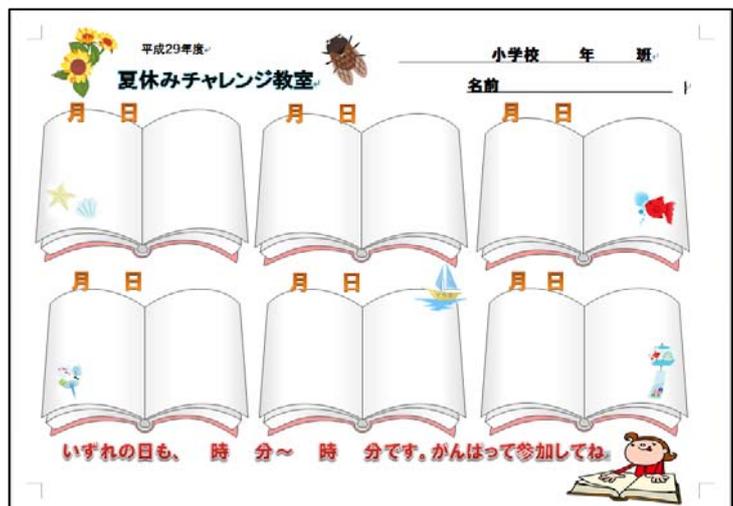


図2【各日 自分の学んだことを記入するカードの様式】

■ 事業の成果

- 基礎学力の向上、学びに向かう力の向上

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- 平成27年度以来、日野町内在住の退職教職員の有志の方々に支援・協力をいただき開催している「日野町夏休みチャレンジ教室」を母体として、その発展形として、各学区が補習教室を実施する時などに、地域未来塾として指導の応援ができるように努めた。
- 行き帰りの交通安全等、送迎の面で課題があり、より身近な公民館等を会場に開催する方向を研究したい。
- 平成30年度は「放課後子ども教室」として実施することとし、南比都佐学区においては、夏季休業中10回程度実施する方向で公民館との連携のもと検討を進めている。

「日野町夏休みチャレンジ教室」をベースとし、希望団体に指導者を派遣することで教室を開催（必佐小学校）

日野町	地域コーディネーター (地域学校協働活動推進員)	□あり ■なし
活動名 必佐学区チャレンジ教室 (日野地域未来塾)	学習支援員等人数	学習支援員 2人 教育活動推進員 0人 教育活動サポーター 0人 その他ボランティア 0人 計2人
年間開催日数	5日	
学習形態	<input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使って一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input type="checkbox"/> 企業人 ■ 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教員 □ 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 □ NPO 等関係者 <input type="checkbox"/> その他
教室の持ち方	<input checked="" type="checkbox"/> 放課後実施(3学期予定) <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ()	
	子どもの平均参加人数	3人

■ 活動の概要と目的

夏季休業中の期間を活用して、一斉学習の中では、基礎的・基本的な学習内容の習得が不十分な児童を対象として、日野町内在住退職教員有志が中心となり、少人数体制で、個々の児童の課題に応じた個別指導を行い、学びに向かう力を高めることを目的とする。

■ 特徴的な学習支援内容

内容：一学期の学習内容の補充 等

■ 対象とする児童

- 対象：小学校3～6年生
- 保護者の了解があり、申し込みがあった児童。
※補充学習が必要と思われる児童に対して、担任より声をかけることもある。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

- 右図1のように、児童及び保護者に対して「事前アンケート」を実施し、ニーズを把握することに努めた。また、特に個に応じた指導とするため支援者へ伝えておきたいこと等の把握に努めた。
- 事業の展開に関しては、「日野町夏休みチャレンジ教室」を母体とし、日野町教育委員会が事前に右図2のようなアンケート調査を各学区に行い、各学区の希望調査結果をもって、日野町在住退職教員有志の会にお願いして、支援者を可能な範囲で派遣するシステムとした。(6月22日までにメール・ファックス等で日野町教育委員会に申し込まれたものに対して、可能な範囲で支援者を派遣した。)

■ 事業の成果

- 基礎学力の向上、学びに向かう力の向上

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- 平成27年度以来、日野町内在住の退職教職員の有志の方々に支援・協力をいただき開催している「日野町夏休みチャレンジ教室」を母体として、その発展形として、各学区が補習教室を実施する時などに、地域未来塾として指導の応援ができるように努めた。
- 行き帰りの交通安全等、送迎の面で課題があり、より身近な各学区の公民館等を会場に開催する方向を研究したい。
- 平成29年度3学期において、次年度の本格実施に向け、試行として「必佐学区放課後子ども教室」を実施できるよう準備を進めているところである。
- 平成30年度は、「放課後子ども教室」として実施することとし、必佐学区においては、一回1時間程度の教室を週3回程度実施する方向で準備を進めている。

「夏休みチャレンジ教室」(地域未来塾)に関する事前アンケート

学校名	日野町立必佐小学校	
学年・氏名	年	

【「夏休みチャレンジ教室」で取り組みたいと思っていること】(お子様が入力ください。)

(例) ○1学期の学習で、苦手だった学習に取り組みたい。

- ・あまりのあるわり算の文章問題
- ・説明文の読み取り問題に関する「夏のドリル(宿題)」の答え合わせ

.....

【「夏休みチャレンジ教室」で取り組みせたいと思っていること】(保護者様が入力ください。)

(例) ○1学期の学習で、十分に定着していなかった内容に取り組みせたい。

- ・分母の違った分数のたし算やひき算の学習
- ・小数÷小数の計算練習 等

.....

【「夏休みチャレンジ教室」の先生へ連絡しておきたいこと】(※必要に応じて記入ください。)

.....

図1【参加児童・保護者向けに行った事前アンケート】

別紙 希望調査書
日野町教育委員会学校教育課(担当)あて

平成29年6月 日

学校名 _____ 小学校

校長名 _____

1 夏休みにおける補習授業など特別学習実施の予定が、
ある □ ない □

2 補習授業等をされる場合、その特別学習に退職教職員有志の皆さん・学生ボランティアの支援を、
希望する □ 希望しない □

3 支援を希望される学校にお聞きます。その学年と回数は？

年	回数	希望する・希望しない
年	回数	希望する・希望しない
年	回数	希望する・希望しない

※特は必要に応じて広げるなどしてお書きください。

4 期日・内容等、現在ご計画の範囲内でお教えてください。

.....

5 学校の教室以外でも、実施は可能かと考えています。たとえば公民館等で実施される等のご希望があればお書きください。

.....

図2【各学区あてに行った事前アンケートの様式】

「まるをいっぱいもらえたよ」～バス待ちの時間を利用して基礎学力の定着を図る（桜谷学区）

日野町	
活動名 桜谷地域未来塾（桜谷小学校放課後学習）	
年間開催日数	18日
学習形態	<input type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input checked="" type="checkbox"/> 教材を使って一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ）
教室の持ち方	<input checked="" type="checkbox"/> 放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ）

地域コーディネーター (地域学校協働活動推進員)	<input type="checkbox"/> あり 0人 <input checked="" type="checkbox"/> なし
学習支援員等人数	学習支援員 1人 教育活動推進員 0人 教育活動サポーター 0人 その他ボランティア 0人 計1人
学習支援員等の属性	<input type="checkbox"/> 企業人 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他
子どもの平均参加人数	40人

■ 活動の概要と目的

本学区の子どもたちは、バスで登下校している子どもが約半数いて、バスを待っている時間がある。その時間を活用して子どもたちの学習意欲の向上と学習習慣の確立を図ることを目的に、放課後学習を実施する。

火曜日 1, 2年 高学年下校までの14:45~15:30 3~6年 15:30~16:15

■ 特徴的な学習支援内容

○算数の学習を支援する。1~3年生は、現在の学年で学習していることの復習を、プリントを中心に行う。

○4年生以上は、計算、図形、面積や体積などのように、その日に学習する内容を限定して、スモールステップで学習が進められるようにプリントを選択して用意しておく。

○主な内容…算数科

3年「たし算・ひき算」「かけ算」「わり算」「時刻と時間」「長さ」「重さ」「大きい数」等、

4~6年「かけ算・わり算」「小数」「分数」「三角形と四角形」「面積」等



【和室でプリント学習】

■ 対象とする児童

どの学年も、希望者を対象とする。その中で補充が必要と考えられる子どもは、担任が教室で補充学習を行う。希望者は、和室でプリント学習を行い、それには学習支援員と担任以外の教員で指導する。



【友達どうしでの教えあい】

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

○希望者を募るが、放課後の時間帯であるので、下校の仕方が前もってわかるように連絡カードを作り、学童へ行く、バスで帰る、お迎えで帰るなどを記入できるようにしておく。

○学習したプリントは、各自のファイルにとじ、学習の成果を残していく。何を学習したのか、どこがわからなかったのかなど振り返ることができる。

■ 事業の成果

○放課後学習の形になれてきて、教室とはちがう場所で学習することが習慣になってきた。

○スモールステップで今まで学習したことを復習する内容が多いので、より多くの課題に取り組めた。そうすることで、子どもたちは「こんなに頑張った」という達成感を感じながら学習に取り組むことができた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

○特に低学年で放課後学習の希望者が増えてきた。学習しようという子どもが増えることは喜ばしいことだが、個々に指導する時間が少なくなるのでその部分をどのように克服するかが課題である。

○全学年の子どもたちが参加しているので、学習プリントの準備に時間がかかる。また子どもによって進み方にも差があるので一律に用意できないため、内容の吟味にも時間がかかる。

豊郷町における学力補充教室の取組

■目指す姿

町内の小中学校に通う子どもたちの基礎学力を高め、全体の学力向上をめざす。
地域の活力を教育支援活動に生かす。

■本年度の具体的活動

(1) 中学校夏季休業中の学習補充教室

3～4名を1グループとし、グループごとに1名、学習支援員が補助し、学習指導を行う。
また、グループ内でも生徒同士が教え合い活動を行う。

(2) 中学校放課後質問教室

質問教室を実施することによって、受験に向けた家庭学習でのつまずきを解消する。

(3) 小学校夏季休業中の学力補充教室

子どもたちが復習プリント等に取り組むそばについて、わからないところを教員やボランティアが個別に教えたり、子どもたちが取り組んだ課題の丸つけをしたりする。

学習会最終日に「科学実験教室」を実施し、理科分野に対する興味や関心を高め、理解を深める。

■本年度の成果

○3年生の2学期に入ってから、生徒たちの放課後学習会へのニーズが高まってはいたが、放課後は部活動の指導があり、教員の確保に苦慮していた中で、地域の方や学生に来ていただくことができ、教員の負担軽減となった。

○回を重ねるごとに、放課後に学習をして帰ろうというスタイルが徐々に3年生の生徒の中に定着してきた。

○長期休業期間での取組は、設定しやすく、学力向上につながり、成果が見られた。

○既習内容の復習を中心に学習することで、あまり復習に時間をかけず2学期の学習がスムーズに始められた。

○長期休業中に定期的に学習会を実施することで、休業中の児童の様子を把握したり、保護者に連絡を取って話ができる機会となった。

○参加児童どうしや担任・ボランティアとのコミュニケーションの場にもなっていて、休業中でも横のつながりや学級のつながりを深められる機会となった。

■課題と今後の学習支援活動に向けて

○安定的に地域の方や学生ボランティアを確保できるかが課題である。

○地域の教育力の低下および家庭の教育力を支える環境不足が課題で、家庭や地域が担うべき教育が学校に持ち込まれすぎている。

○希望する全ての児童が対象であるため、少人数や個別での指導が難しい。

○呼びかけた児童が必ずしも全員参加するとは限らず、担任の意図と合致しないことがある。



【放課後質問教室の様子】



【わくわく学習会の様子】

小グループを利用したサポート学習への取組

(豊日中学校)

豊郷町	
活動名 豊日中学校地域未来塾 (夏休み学習補充教室・質問教室、放課後質問教室)	
年間開催日数	長期休業5日・放課後15日
学習形態	<input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使って一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ()
教室のもち方	<input checked="" type="checkbox"/> 放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ()

地域コーディネーター (地域学校協働活動推進員)	<input checked="" type="checkbox"/> あり 1人 <input type="checkbox"/> なし
学習支援員等人数	学習支援員 8人 教育活動推進員 人 教育活動サポーター 人 その他ボランティア 人 計8人
学習支援員等の属性	<input type="checkbox"/> 企業人 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他
子どもの平均参加人数	1回あたり約10人

■ 活動の概要と目的

- 3年・進路実現に向けて、基礎・基本的な内容を重点的に学習することによって、基礎学力の定着を図る。
 ・質問教室を実施することによって、受験に向けた家庭学習でのつまずきを解消する。
- 2年・夏休みの宿題を仕上げることで、確認テスト対策を行い、達成感を味わえるように心がけた。
 ・質問教室では、学習習慣の定着を図るため、週に1回、場所と時間の確保を行い、宿題を仕上げるように指導した。
 ・定期テスト前の放課後に、授業の内容の定着と学力向上を目的として、自主学習の教室と、質問教室の教室を設定した。
- 1年・夏休みに、指名制の補習、希望制の質問教室を実施した。補習は、学習習慣の確立と基礎学力の定着を目的に、数学と英語を中心に学習した。
 ・定期テスト前の放課後に、授業の内容の定着と学力強化を目的とした希望制の質問教室を行った。

■ 特徴的な学習支援内容 (全学年)

- (1) 3～4名を1グループとし、グループごとに1名、学習支援員が補助し、学習指導を行っている。また、グループ内でも生徒同士が教え合い活動を行っている。
- (2) 生徒と年齢の近い学生も多いため、生徒が気軽に進路についてのアドバイスを求めることができ、より身近にそして、前向きに考える契機となっている。また、生徒が気軽に質問でき、いつも以上に積極的に学習できた。
- (3) 1対1の個別指導を取り入れ、学習支援員がサポートする形で教員と分担して指導した。

■ 対象とする生徒

3年

夏休み学習補充教室・質問教室；補充対象者・希望者

放課後質問教室；希望者

1, 2年

夏休みの学力補充教室・質問教室；補充対象者・希望者 補習の対象生徒は、教科(数学と英語)担当から選出

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

- バッチリスタディ教室(町主催の年間を通した学力補充教室)を開催している隣保館とも連携を図りながら、地域の方や学生を募り、教員と共同で学習支援を行っている。この活動を通じて地域のつながり・きずなをさらに強化していきたい。

■ 事業の成果

- 3年生の2学期に入ってから、生徒たちより放課後学習会へのニーズが高まっていたが、放課後は部活動の指導があり、教員の確保に苦慮していた中で、地域の方や学生に来ていただくことができ、教員の負担軽減となった。
- 回を重ねるごとに、放課後に学習をして帰ろうというスタイルが徐々に3年生の生徒の中に定着してきた。
- 長期休業期間での取り組みは、設定しやすく、学力向上につながり、成果が見られた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- 今年度は、多くのボランティアや学生の方々に来ていただいたが、継続していくためには、毎年、安定的に学習支援員を確保できるかどうか課題である。町に人材バンクのようなものがあれば、もっと人材が集まるのではないかなと思う。
- 学校・家庭・地域が手をとり合って、地域の宝である子どもを育てる1つのきっかけとしたい。
- 学校・家庭・地域が連携して、地域社会全体で教育支援活動していくことが大切だと考える。
- 地域の教育力の低下および家庭の教育力を支える環境不足が課題で、家庭や地域が担うべき教育が学校に持ち込まれすぎている。
- 地域の活力を教育支援活動に生かしていくことは素晴らしい取り組みである。
- できれば、もう少しサポーターの数を確保したい。安定的に地域の方々や、学生ボランティアを確保できるかどうか課題のよう思う。

夏季休業中学力補充教室「夏休みわくわく学習会」

(豊郷小学校)

豊郷町		地域コーディネーター (地域学校協働活動推進員)	■あり 1人 □なし
活動名 豊郷小学校地域未来塾 (わくわく学習会)		学習支援員数人数	学習支援員 37人 教育活動推進員 人 教育活動サポーター 人 その他ボランティア 人 計37人
年間開催日数	5日	学習支援員等の属性	□企業人 ■行政職員 □元教員 ■地域住民 ■大学生 □NPO等関係者 ■その他(専門学生)
学習形態	■個別の学力補充 ■教材を使って一斉学習 □その他()	子どもの平均参加人数	193人
教室のもち方	□放課後実施 □土曜日実施 ■長期休業日実施 □その他()		

■ 活動の概要と目的

概要

各学年における1学期の既習内容などの復習に取り組む。1・2時間目は国語と算数のプリント学習を中心に学習する。3時間目は、自ら教科やテーマを決めて進める自主学習、あるいは百人一首や辞書を用いた学習など、各学年の状況に応じて子どもたちが楽しみながら学習できるよう工夫している。

目的(ねらい)

- ・個のつまずきに寄り添った補充学習や復習をすることで、わからないことをわかるようにする。
- ・学習する楽しさを継続して感じさせることで、個々の家庭学習への意欲につなげる。
- ・長期休業中の子どもたちの様子を把握し、生活リズムや学習習慣を支えるようにする。

■ 特徴的な学習支援内容

- (1) 子どもたちが復習プリント等に取り組むそばについて、わからないところを教員やボランティアが個別に教えたり、子どもたちが取り組んだ課題の丸つけをしたりする。
- (2) 3時間目の学習で、学生ボランティアが本の読み聞かせを担当したり、カルタを読み上げたりして学習の支援をする。
- (3) 学習会最終日の3時間目に「科学実験教室」を実施し、子どもたちの理科分野に対する興味や関心を高め、理解を深める。

■ 対象とする生徒

町内の小学校に在籍する児童のうち、希望する全ての児童

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

○学校の期末懇談会で担任から保護者に参加を呼びかけたり、事前に学習内容を周知したりして積極的に学習会に参加できるよう努めている。

○国語や算数のプリント学習では、自分のペースで学習を進められるようにしている。また、習熟の程度に応じて一斉に授業形式で実施するなど工夫している。それに、3時間目を自らテーマを決めて進める自主学習の時間にしたり、学年に応じて楽しみながら学習できるような内容で実施している。

■ 事業の成果

○既習内容の復習を中心に学習することで、各学年で2学期の学習がスムーズに始められることが多い。(あまり復習に時間をかける必要なく、2学期の学習が始められる。)

○長期休業中に定期的に学習会を実施することで、休業中の児童の様子を把握したり、保護者に連絡を取って話ができる機会となった。

○参加児童どうしや担任・ボランティアとのコミュニケーションの場にもなっていて、休業中でも横のつながりや学級のつながりを深められる機会となった。

○科学実験教室をととして、理科に興味・関心をもつ子どもが増えた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

○呼びかけた児童が必ずしも全員参加するとは限らず、担任の意図と合致しないことがある。

○希望する全ての児童が対象であるため、少人数や個別での指導が難しい。

○この事業を継続していく中で、学習の習熟度を見て、個別指導につなげていく仕組みを検討したい。

夏季休業中学力補充教室「夏休みわくわく学習会」

(日栄小学校)

豊郷町		地域コーディネーター (地域学校協働活動推進員)	■あり 1人 □なし
活動名 日栄小学校地域未来塾 (わくわく学習会)		学習支援員数人数	学習支援員 24人 教育活動推進員 人 教育活動サポーター 人 その他ボランティア 人 計24人
年間開催日数	3日		
学習形態	<input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input checked="" type="checkbox"/> 教材を使って一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ()		
教室のもち方	<input type="checkbox"/> 放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ()		
		学習支援員等の属性	<input type="checkbox"/> 企業人 <input checked="" type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO 等関係者 <input checked="" type="checkbox"/> その他(専門学生)
		子どもの平均参加人数	188人

■ 活動の概要と目的

概要

各学年における1学期の既習内容などの復習に取り組む。1・2時間目は国語と算数のプリント学習を中心に学習する。3時間目は、自ら教科やテーマを決めて進める自主学習、あるいは百人一首や辞書を用いた学習など、各学年の状況に応じて子どもたちが楽しみながら学習できるよう工夫している。

目的(ねらい)

- ・個のつまずきに寄り添った補充学習や復習をすることで、わからないことをわかるようにする。
- ・学習する楽しさを継続して感じさせることで、個々の家庭学習への意欲につなげる。
- ・長期休業中の子どもたちの様子を把握し、生活リズムや学習習慣を支えるようにする。

■ 特徴的な学習支援内容

- (1) 子どもたちが復習プリント等に取り組むそばについて、わからないところを教員やボランティアが個別に教えたり、子どもたちが取り組んだ課題の丸つけをしたりする。
- (2) 3時間目の学習で、学生ボランティアが本の読み聞かせを担当したり、カルタを読み上げたりして学習の支援をする。
- (3) 学習会最終日の3時間目に「科学実験教室」を実施し、子どもたちの理科分野に対する興味や関心を高め、理解を深める。

■ 対象とする生徒

町内の小学校に在籍する児童のうち、希望する全ての児童

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

○懇談会で担任から保護者に参加を呼びかけ、多くの子どもが学習会に参加できるよう努めている。

○国語や算数のプリント学習では、自分のペースで学習を進められるようにしている。また、習熟の程度に応じて一斉に授業形式で実施するなど工夫している。それに、3時間目を自らテーマを決めて進める自主学習の時間にしたり、学年に応じて楽しみながら学習できるような内容で実施している。

■ 事業の成果

○既習内容の復習を中心に学習することで、各学年で2学期の学習がスムーズに始められることが多い。(あまり復習に時間をかける必要なく、2学期の学習が始められる。)

○長期休業中に定期的に学習会を実施することで、休業中の児童の様子を把握したり、保護者に連絡を取って話ができる機会となった。

○参加児童どうしや担任・ボランティアとのコミュニケーションの場にもなっていて、休業中でも横のつながりや学級のつながりを深められる機会となった。

○国語(漢字)、算数(基礎的な計算、問題)が解けるようになったとの感想を多数の子どもたちから聞いた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

○希望する全ての児童が対象であるため、少人数や個別での指導が難しい。

○申込はあったが、全員が意欲的に参加しているというわけではないため、学習にきちんと向き合えない子どもが見られた。

多賀町における教育支援の取組

■目指す姿

本町が目指す将来像を実現するために、「まちづくり」は「ひとづくり」であるとの基本認識に立ち、「子育て教育熱心なまち」の具現化を進めている。今日の課題である少子高齢化・人口減少は、本町においては「住み続けたい町」「移り住みたい町」とするため、具体的な方策を早急に講じなければならない課題となっている。現在の住民が安心して住み続けられる地域にするとともに、町外よりの転入や定住化を促進するための重要施策として、教育は本町の活性化へ大きな役割を担うものにとらえている。

そこで「安心して子育てができる多賀町」とするために、保護者にとっては「通わせたい園・学校」、子どもにとっては「通いたい園・学校」づくりを進めることが肝要である。



【1年生の講座の様子】

■本年度の具体的活動

「多賀町中学生土曜講座(サスタ)」の実施

多賀中学校に在籍する生徒を対象に、希望者を募り本講座を実施している。民間の塾と委託契約を結び、講師の派遣を受けている。本講座への参加者希望者は年々増加し、可能な限り希望者全員を受け入れるように講師を増やすなどの対応をとってきた。地域教育力協議会でも本町の特筆すべき取組のひとつとして評価をいただいております、今後も継続を望むとの意見をいただいております。

■本年度の成果

上述のように本町では地域活性化、人口増加と定着化が重要な課題となっている。これらに対する施策を協議する組織は、教育委員会事務局だけでなく各課を横断したものとなっている。そのため土曜講座については、生徒および保護者アンケート等の結果から学力向上とともに本町の課題に応じた施策でもあるとの評価を受けており、町行政全体の共通認識の上に立った取組となっている。



【開講式での中学校長からの励まし】

■今後の課題

受講生の多い学年では、学習に遅れがちな生徒に対して個別に指導することが難しい状況も出ている。本年度は、学習支援員としての塾講師以外にも地域の方や高校生の方にボランティアとして、生徒への個別指導の協力を受けている。このことは学習支援という意味ばかりだけでなく、中学生にとっては地域の方からも期待をもたれ、支えられているとの実感をもつことができるとともに、高校生が「ふるさとの良き先輩」としての姿を見せてくれているという面でも価値があった。ボランティアの方々の姿はモデルとして、中学生にとって将来の自らの生き方を考える上でも意義あるものと考えられる。

このようなことから今後さらに地域のみなさんからの支援を広く受けられるような働きかけが必要となると考える。本町で行っている給付型奨学金を受給されている若い人たちにボランティアのひとつの場として周知していくことも方策のひとつとして考えられる。必佐小地域未来塾、南必都佐地域未来

